あなたの評価表

解法ルート			到達目標	評価	指導コメント
解釈	問二	設問読解	設問で求められていることを押さえられている	B	携帯電話・PCでの会話の特徴と独り言の特徴の共通点として、文体がないという点を読み取れている。 また、文体が自分（自分の思想）を表現するという筆者の主張について読み取ることができ、「文体」と「私（私の思想）」との関係性を踏まえて、筆者の主張の理由を説明しようと試みている点は良い。 ただし解答では、文体が「他者との関わり」においてどのような性質を持つのかという部分にも触れる必要がある。筆者の問題意識が、コミュニケーションの場での文体の必要性の変化に関するものであるという点を踏まえて、細部を読み取ろう。
	問一 問二	資料読解	資料文中の筆者の考え・主張を読み取ることができる		
構築	問一	論拠に基づいた思考	「携帯を通した会話」と「独り言」の特徴である「文体がない」という共通点から、筆者の判断根拠を指摘できている	B	「携帯電話を通した会話」の特徴と「独り言」の特徴から、両者の共通点のひとつである「文体の欠如」について指摘できている。 あとは具体例の「伝えたいことを強調するポイントがない」「何かを伝えようとするメッセージ性はない」という共通項と、筆者が作ってきた文体の性質・そこでの人間関係を対比させて、「他者へのメッセージ性がない」という点を押さえよう。
	問二		文体とは自己を表現し、他者に伝えるものであるという筆者の主張を理由として説明できている	C	「文体によって私が確立する」とあなたが考えたのは、「文体によって私が表現される」という筆者の主張を読み取れたからだろう。だが、「確立する」はいささか飛躍しすぎである。筆者はここでは自分の内面の確立を問題にしているのではない。 現代のコミュニケーションの場において文体は不要となっているが、文体を放棄することは「私」を放棄することに等しいと述べているのである。 筆者の挙げている「文体の過去と現在」での具体例で、文体のどんな特徴について述べられているかに注意しよう。筆者の主張の根拠を考える場合は、文章全体の論の中心点を押さえることが大切だ。
発信	問一 問二	構成	筋道の立った構成になっている 設問で求められている字数を満たしている	B	（一）の「自分の伝え難いものを伝える」は「文体」という語句の修飾節としてまとめよう。 （二）は「文体を否定することで、内面ごと否定する」という点に論理の飛躍がある。
	問一 問二	表記	正しく表記できている。誤字脱字がない。	A	誤字脱字もなく、正しく表記できている。

講評

問題文自体はよく読めている。文体の放棄は自己の放棄につながるという筆者の根本思想に理解が届いている点もよい。
しかし、文体が他者とのコミュニケーションで発揮する特徴＝「文体は他者に私を伝えるものである」という視点が解答にまとめる段階で抜けてしまったのが惜しい。また、表現を工夫しようという意欲は評価できるが、自分なりに解釈してまとめるのはよくない。
次回からは、話題と筆者の問題意識を押さえたうえで、キーワードについてどのように述べられているかを丁寧に見ていこう。筆者の思考に沿ってきちんと情報を収集したうえで、俯瞰視点で考えるのが基本だ。まず解答に必要な要素を自己発問によって洗い出し、説明の順序を考え、それから表現を工夫するとよい。
自分の解答をまとめたら、もう一度よく見直して、設問の答えになっているかどうか、問題文の内容を反映しているかどうかを客観的な目で点検することも大切だ。